

# 液化室だより

東大物性研究所 <http://www.issp.u-tokyo.ac.jp/labs/cryogenic/>

## 在庫量調査について

液体ヘリウムを使用している研究室は、毎月1回(原則として第一月曜日)ヘリウムの保有量調査、流量計の積算値入力が必要です。これらのデータを収集することにより、柏キャンパス内にどの程度のヘリウムガスが存在するのか、ヘリウムガスをどの程度大気放出してしまったのか、といった情報を知ることが出来ます。

これらの情報をより正確に知る為には、出来る限り同じ時間に調査を実施する必要があります。原則として第一月曜日の10時にデータを収集することになっています。また、実験装置内や液体ヘリウム容器内の液体ヘリウムの残量についても、出来る限り正確に確認することが重要です。各担当者だけでなく研究室の方々のご理解、ご協力をお願いいたします。特に各担当者や研究室の方々不在となる場合にはご注意ください。

今後の在庫調査予定

平成21年	4月	6日
	5月	1日
	6月	1日
	7月	6日
	8月	3日
	9月	7日
	10月	5日
	11月	2日
	12月	7日

さらに、損失量(回収率)の算出は、小さな単位で行うことにより、ガス損失の原因特定がスムーズに行えるようになります。現在は、物性研本館、低温棟、極限棟、先端分光棟、新領域の5つの区分で計算していますが、棟をまたいで使用している場合には、建物毎の使用量を把握しなければ正確な損失量(回収率)を算出することは出来ません。棟をまたいで液体ヘリウムを使用している研究室は、必ず別棟での使用量を報告して下さい。

なお、物性研究所の本館において、配管されている窒素ガスを使用している研究室は、窒素ガス流量計の積算値も毎月入力する必要があります。

## 液体ヘリウム供給価格改定

液体ヘリウム利用者の方々の方々の努力により、ヘリウムガスの回収率が昨年4月より80%~85%程度を維持しています。このことにより、原料のヘリウムガスの補充量が昨年度に比べ大幅に減少している為、液体ヘリウムの供給価格を改定することにしました。

なお今回の改定は、次年度の原料ガスの値上がりが見込まれていること、及び今後の回収率の動向をみてから次年度の価格を決定する為、今年の6月までの価格となります。回収率の現状維持もしくは向上により、さらなる低価格化も可能です。引き続きのご協力をお願いいたします。

※回収率と供給価格の関係は、液化室だより第94号を参照

期 間	平成21年 2月～ 3月		平成21年 4月～ 6月	
	所 内	所 外	所 内	所 外
液体ヘリウム	240円/L	270円/L	240円/L	260円/L

※液体窒素及びヘリウムガス(47L, 99.99%)の価格に変更はありません。

問い合わせ [ E-mail: [ekika@issp.u-tokyo.ac.jp](mailto:ekika@issp.u-tokyo.ac.jp) 内線:63515 ]